

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈新代表理事挨拶〉

〈前代表理事挨拶〉

〈理事会報告（2017 年 6 月 23 日）〉

- I. 総会議事について
- II. 各種委員会の 2016 年度活動報告について
- III. 30 周年記念事業の進捗状況について
- IV. 次期大会開催校について
- V. 学会理事有志による提言等の扱いについて
- VI. その他
- VII. 選挙管理委員会報告
- VIII. 事務局報告

〈新理事会報告（2017 年 6 月 24 日）〉

〈総会報告（2017 年 6 月 25 日）〉

- I. 第 27 回大会年度(2016 年度)活動報告
- II. 新体制について
- III. 第 28 回大会年度(2017 年度)活動方針
- IV. 第 29 回大会(2018 年度)開催校について

〈第 28 回大会報告（2017 年 6 月 24 日、25 日）〉

〈新役員〉

『カリキュラム研究』第 27 号・論文投稿先のご案内)

〈第 8 回研究集会報告〉

〈「秋のセミナー2017」のご案内〉

〈事務局からのお知らせ〉

新代表理事挨拶

さる6月24日に開催された新しい理事会において、本学会の代表理事に承認されました京都大学の松下佳代です。

私のような若輩者が代表理事に選出されるとは思いもよらなかったのですが、せっかく選んでいただいたからには、本学会の活動を今まで以上に、知的にスリリングで豊かなものにすべく努力したいと考えております。そのために今後3年間の任期中に、みなさまのご協力を得ながら行っていきたいことを以下に挙げ、ご挨拶とさせていただきます。

本学会は1990年12月に設立され、2020年に30周年を迎えます。この間、長尾彰夫前代表理事のリーダーシップの下で、30周年記念出版事業の準備が進められ、教育出版から刊行される運びになっております。引き続き、長尾理事のご指導を仰ぎながら、この本を、30周年にふさわしい充実したものになりたいと思います。

大会は、今年の第28回大会が岡山大学で開催され、続く第29回大会は北海道教育大学旭川校、第30回記念大会は京都大学、第31回は琉球大学で開催される予定です。まさに北海道から京都を経て沖縄まで、日本列島を縦断する形で3回の大会が開催されます。第10回記念大会でのマイケル・アップル氏の講演は非常に印象的なものでした。第30回記念大会でも国際シンポジウム等を開催し、世界のカリキュラム研究・実践の中での日本のカリキュラム研究・実践のあり方をあらためて考える機会にできればと思っています。

カリキュラムはポリティクスのせめぎ合う場です。本学会の会員も、小学校から大学までの教育機関、あるいは省庁から自治体までの行政機関、教育産業等、さまざまの“現場”に身を置きながら、カリキュラムの研究と実践にかかわっておられます。教育政策や学習指導要領に代表されるフォーマルなカリキュラムに対するスタンスもまたさまざまです。推進・普及する立場の人もいれば、批判的な立場を取る人もいます。また、学会の外にもカリキュラム研究・実践に携わっておられる方々がおられます。大会やセミナー・研究集会等で、異質な考え方との出会いを演出し、多様性をもたらすダイナミズムによって、学会の議論をより活性化していきたいと思います。

近年、日本教育学会や日本教育社会学会など多くの学会で、若手育成・支援に力を入れていますが、本学会には、継続的に、若手（年齢的に若い、あるいは研究歴の浅い）方々が入会して下さっていますが、過去3年間事務局長を務めさせていただいて、やはり若手育成・支援の必要性を感じています。そこで、今回、これまでの研究・広報委員会を二つに分けて、研究委員会と広報・若手育成委員会とし、後者でその機能の強化を図ることにいたしました。シンポジウム・課題研究・セミナー等でも若手を積極的に登用していきたいと考えています。また、若手（あるいは潜在的な会員）への発信力ということであれば、ウェブサイトの役割は大きいので、その充実も図っていければと思います。学生会員の会費の値下げも検討しております。

これらの課題は理事会・各種委員会、大会開催校等の連携の下で初めて可能になることであり、同時に、会員のみなさまのご理解とご協力が欠かせません。どうぞよろしくご願い申し上げます。

(京都大学・松下佳代)

前代表理事挨拶

この6月を持ちまして、何とか代表理事を退任する運びとなりました。3年前の代表理事選挙によって、代表理事に選出されたので宜しくとの報を受けた時、ちょうどアメリカのウィスコンシンでブラブラしている時でした。果たしてどうしたものかといささかの躊躇はありましたが、国際電話のこともあり、あまり面倒をおかけしても、と引き受けることにいたしました。代表理事の「定年」は70歳と会則にあり、また、学会発足の時からの「お付き合い」もあり、一期限定ということでお引き受けした次第です。

代表理事とはいえ、私の場合はほとんどを事務局に「丸投げ」で、事務局の方々には、本当にお世話になりました。この場をお借りして、改めて心からの感謝と御礼を申し上げます。私の任期中にはさしたることもできず、日常的なそれこそルーティンワークとスケジュールをこなすことで精一杯ではありましたが、ひとつ手を付けたのは、学会30周年記念出版でした。これは現在進行中ではありますが、それについてはそれなりのお手伝いをしていかねばと考えております。

いずれにしても、なんとか任を終えることが出来ましたのも、事務局、各種委員、そして会員の皆様方のご理解とご協力があったればこそと、改めての御礼を申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(プール学院大学・長尾彰夫)

理事会報告 (2017年6月23日)

定例理事会が6月23日(金)15時00分から16時30分まで、岡山大学教育学研究科本館4階407にて開催されました。理事18名に加えて、大会開催校(岡山大学教育学部)より、桑原大会実行委員長が参加されました。

I 総会議事について

松下事務局長より、第28回大会総会議事次第案について提案され、審議が行われた。予算編成と関わり、新理事会における委員会体制変更の必要性、日本学術協力財団賛助会費の必要性に関して議論された。

II 各種委員会の2015年度活動報告について

1. 紀要編集委員会

橋本委員長より、『カリキュラム研究』第26号発行及び次期委員会への申し送り事項について報告され承認された。根津副委員長より、J-Stageへの移行に伴う費用が発生する旨報告され承認された。

2. 国際交流委員会

中野委員より、2016年度の活動と今後の課題についての報告が行われ承認された。

3. 研究・広報委員会

西岡副委員長より、3年間の活動と今後の課題について報告が行われ承認された。

4. 研究奨励賞審査委員会

橋本委員長より、「該当者なし」の旨が報告され承認された。

III 30周年記念事業の進捗状況について

長尾代表理事より、進捗状況について報告され承認された。編集委員会体制は今後も継続を基本とすることが確認された。

IV 次期大会開催校について

北海道教育大学旭川校

V 学会理事有志による提言等の扱いについて

長尾代表理事及び松下事務局長より、「学校教育における教育勅語の取り扱いに関する提言」について経緯と結果が報告され、審議が行われた。日本教育学会ウェブサイトにおける「政府の教育勅語容認答弁に関する声明」の取り扱いは、会長声明であるため、長尾代表理事に一任することとされた。

VI その他

VII 選挙管理委員会報告

審議事項Ⅰにおいて報告済み。

VIII 事務局報告

1. 会員現況報告

会員総数 709 名（一般会員 623 名、学生会員 78 名、団体会員 8 件）

※ 連絡先不明者 12 名、会員一時資格停止者 19 名を含む。

注：昨年同時期は、会員総数 700 名（一般会員 613 名、学生会員 80 名、団体会員 7 件）

・新規入会者（2017年2月28日～6月20日）24名

	入会日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2017/3/9	手塚 裕	※所属非公開希望	一般会員	なし
2	2017/3/10	日下 智志	※所属非公開希望	一般会員	事務局
3	2017/3/25	宮本 英征	広島大学附属中・高等学校	一般会員	事務局
4	2017/3/29	渡邊 絢子	※所属非公開希望	一般会員	事務局
5	2017/4/1	濱中 啓二郎	新渡戸文化短期大学	一般会員	事務局
6	2017/4/3	日下 明典	和歌山県教育センター	一般会員	事務局
7	2017/4/12	三品 陽平	※所属非公開希望	一般会員	事務局
8	2017/4/14	馬場 洸志	※所属非公開希望	学生会員	倉本哲男
9	2017/4/18	松本 圭朗	※所属非公開希望	学生会員	事務局
10	2017/4/21	出野 誉大	岡山大学	学生会員	事務局
11	2017/4/24	福嶋 祐貴	京都大学大学院教育学研究科	学生会員	大貫守
12	2017/4/27	内田 浩江	近畿大学附属看護専門学校	一般会員	事務局
13	2017/4/28	臼杵 龍児	※所属非公開希望	学生会員	事務局
14	2017/5/8	松田 雅代	※所属非公開希望	学生会員	溝邊和成
15	2017/5/12	中野 真悟	※所属非公開希望	一般会員	事務局
16	2017/5/15	渡部 裕哉	※所属非公開希望	学生会員	事務局
17	2017/5/15	角谷 亮太郎	※所属非公開希望	学生会員	事務局
18	2017/5/17	加納 誠司	愛知教育大学	一般会員	事務局
19	2017/5/22	本宮 裕示郎	※所属非公開希望	学生会員	石井英真
20	2017/5/24	島埜内 恵	※所属非公開希望	一般会員	事務局
21	2017/6/2	大塚 雅之	※所属非公開希望	学生会員	事務局
22	2017/6/6	藤井 雅英	園田学園女子大学	一般会員	事務局
23	2017/6/8	渋山 昌雄	※所属非公開希望	一般会員	事務局
24	2017/6/14	田中 裕史	※所属非公開希望	学生会員	渡邊雅子

・退会者（2017年2月28日～6月20日）20名

	退会日	氏名	所属	区分
1	2017/5/1	斉藤 真子	名古屋大学教育学部附属中高等学校	一般会員
2	2017/3/31	二杉 孝司	金城学院大学	一般会員
3	2017/5/8	山本 俊彦	三重大学教育学部	一般会員
4	2017/3/31	原田 智仁	兵庫教育大学	一般会員
5	2017/5/16	森藤 義孝	福岡教育大学理科教育教室	一般会員
6	2017/3/31	木全 清博	滋賀大学教育学部	一般会員
7	2017/5/8	貫井 朋之	※所属非公開希望	学生会員

8	2017/5/1	西村 公孝	鳴門教育大学学校教育学部	一般会員
9	2017/5/1	若林 一成	※所属非公開希望	一般会員
10	2017/3/31	野畑 博之	東京書籍株式会社 編集局	一般会員
11	2017/3/31	石堂 常世	早稲田大学教育総合科学学術院	一般会員
12	2017/5/8	桜井 恵子	小田原短期大学	一般会員
13	2017/4/28	朝倉 淳	広島大学大学院教育学研究科	一般会員
14	2017/5/16	新谷 裕	名古屋大学教育発達科学研究科	学生会員
15	2017/3/31	白水 始	文部科学省	一般会員
16	2017/3/31	藤本 奈美	京都大学 教育学研究科	学生会員
17	2017/3/31	中田 晋介	※所属非公開希望	一般会員
18	2017/3/31	菅尾 英代	※所属非公開希望	学生会員
19	2017/3/13	佐藤 光友	※所属非公開希望	一般会員
20	2017/3/31	兵庫教育大学 附属図書館		定期購読

2. 寄贈図書等一覧

(詳細は「事務局からのお知らせ」を参照)

新理事会報告 (2017年6月24日)

新理事会が6月24日(土)12時5分から12時55分まで、岡山大学大学院教育学研究科本館4階407で開催されました。議長選出、選挙管理委員会報告に続いて、下記の議題が審議・決定されました。

I. 代表理事の選出について

代表理事選挙の開票結果に基づき、松下佳代理事(京都大学)が選出され、承認された。推薦理事、事務局長、事務局体制、および各種委員会委員長については、新代表理事のもとで今後検討をすることとなった。

総会報告（2017年6月25日）

2017年6月25日（日）、12時20分から13時10分まで、岡山大学大学院教育学研究科講義棟5202において、桑原敏典会員（岡山大学教育学部教授）、坂井誠亮会員（次期大会校、北海道教育大学旭川校）を議長団として、総会が開催されました。これにおいて、6月23日（金）の理事会で承認された議案が、すべて承認されました。

I. 第27回大会年度（2016年度）活動報告

（1）一般活動報告

①現況概要（2017年6月20日現在）

会員総数 709名（一般会員 623名、学生会員 78名、団体会員 7件）

*うち、会員一時資格停止者 19名、連絡先不明 12名を含む

会費納入状況 2016年度分の納入率 92.9%（昨年度 94.4%、一昨年度 92.8%）

②第27回大会報告

参加者 267名。会報第72号にて既報。

③学会誌『カリキュラム研究』第26号発行

④会報第71・72・73号発行

⑤学会研究奨励賞選考結果

該当者なし

⑥会員勧誘の結果（2016年度内）

新入会員 49名（昨年度 41名、一昨年度 29名）

⑦秋のセミナー2016の開催

日時：2016年11月5日（土）

場所：お茶の水女子大学

テーマ：「カリキュラム・マネジメントを考える」

発表者：天笠茂（千葉大学）

「学習指導要領実現に向けカリキュラム・マネジメントが果たす役割とは」

上越市立大手町小学校、横浜市立南高等学校附属中学校、金沢大学附属高等学校

（解説：天笠茂、村川雅弘（鳴門教育大学）、田村知子（岐阜大学））

「学校はカリキュラム・マネジメントをどう進めていくか」

⑧第8回研究集会の開催

日時：2017年3月5日（日）

場所：お茶の水女子大学

発表者：奥村好美（兵庫教育大学）

「オランダの学校評価と学校改善から学ぶ

—豊かな学びと学校の多様性の視点から—

内藤恵子（元仙台市立七北田小学校）・小泉祥一（白鷗大学教育学部）

「新教科『地域共生科』開発の意義と効果

—地域貢献活動を通して自己形成する子どもの育成を中心に—

⑨30周年記念事業の準備

『現代カリキュラム研究の動向と展望』（教育出版、2018年秋刊行予定）

⑩その他

(2) 2016年度決算報告・監査報告

2017年5月27日

日本カリキュラム学会
第27回大会年度(2016年度)決算報告書
(2016年4月1日～2017年3月31日)

収入の部


項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	4,500,000	5,289,000
入会金	40,000	104,000
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	48,034
第27回大会収入(除く補助費)	1,350,000	1,516,002
寄付	0	0
前年度繰越金	6,362,223	6,362,223
合計	12,282,223	13,319,259

支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)
第27回大会補助費	650,000	650,000
第27回大会支出(除く補助費)	1,350,000	1,318,311
第26号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	519,193
学会研究奨励賞費	50,000	50,000
会合費(含む交通費)	900,000	668,290
事務局経費	100,000	26,290
事務局外部委託費	1,600,000	1,496,067
ホームページ運用費	250,000	183,600
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	150,000	24,458
国際交流委員会	100,000	22,540
研究・広報委員会	300,000	537,066
研究奨励賞審査委員会	100,000	2,508
(小計)	650,000	586,572
30周年記念事業準備費	300,000	296,322
理事・代表理事選挙経費	50,000	42,740
予備費	200,000	0
次年度繰越金	5,422,223	7,421,874
合計	12,282,223	13,319,259

本簿について監査しました。

吉富芳正 

関根明伸 

II. 新体制について

選挙管理委員会の石井英真委員長より、理事選挙結果報告と代表理事選挙結果報告がなされた。新役員の詳細は、後に掲載する。その他、会計監査に関して、関根明伸会員（国土館大学）は留任、吉富芳正会員（明星大学）の後任には上野正道会員（大東文化大学）が選出された。各種委員会の構成は11月の定例理事会後に報告する予定。

III. 第28回大会年度（2017年度）活動方針案について

（1）一般方針

- ①年次大会（第28回大会）の実施
- ②第29回大会の準備
- ③学会誌『カリキュラム研究』第27号発行
- ④学会研究奨励賞の選考
- ⑤秋のセミナー2017の開催（予定）
- ⑥第9回研究集会の開催（予定）
- ⑦会報、その他の広報活動
- ⑧会員勧誘
- ⑨30周年記念事業の準備
- ⑩その他

（2）2017年度予算案

第27回大会年度（2016年度）予算案（2016年4月1日～2017年3月31日）

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	4,500,000	会費納入率90%で概算
入会金	40,000	20名見込み
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	
第27回大会収入（除く補助費）	1,350,000	第26回大会実績にもとづく
寄付	0	
前年度繰越金	6,362,223	
合計	12,282,223	

第 28 回大会報告 (2017 年 6 月 24・25 日)

日本カリキュラム学会第 28 回大会は、2017 年 6 月 24 日～25 日に岡山大学教育学部を会場にして開催された。参加者は 250 名を越え、充実した大会となった。

自由研究発表では、13 の分科会が設けられ、54 件の発表があった。各分科会 3～5 件の発表となり、どの分科会も熱心な議論が展開された。

課題研究は 4 つのテーマが取り上げられた。課題研究Ⅰは、「カリキュラム改善のためのカリキュラム評価」(コーディネーター:村川雅弘・藤川聡・西岡加名恵、司会:村川雅弘・藤川聡、指定討論者:田村知子)をテーマに、根津朋実、原田信之、岡田さつきから提案がなされた。新学習指導要領でカリキュラム・マネジメントが推奨されていることをふまえて、カリキュラム改善につながるカリキュラム評価の在り方について、理論的・実践的な蓄積を踏まえつつ、今後の展望について意見交換がなされた。

課題研究Ⅱは「今日のカリキュラム改革と公教育のあり方」(コーディネーター/司会:中野和光・的場正美)をテーマに、矢野裕俊、志村喬、吉田成章から提案があった。グローバリゼーションの時代において、人々の思想の自由、教育の自由、学問の自由を保障する民主主義社会にふさわしい公教育のあり方について、米国、英国、EU で現在起こっているカリキュラム改革についての報告をもとに深い議論がなされた。

課題研究Ⅲでは、「現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題(その 3)ー学校の教育課程経営とそれに関わる地方教育行政を中心にー」(コーディネーター:小泉祥一・石田有記、司会:磯田文雄)をテーマに、小泉祥一、石田有記、小倉貴志、菊地真貴子から提案があった。今回は、学校における教育課程経営過程に焦点を絞り、学校における教育課程経営のあり方、それを教育課程行政がどのように支えるのかについて、そのための条件や課題などを中心に検討がなされた。

課題研究Ⅳでは、「批判的教育学(クリティカル・エデュケーション)の課題と展望ー新学習指導要領の臨界点(クリティカル・ポイント)ー」(司会:長尾彰夫・浅沼茂、指定討論者:上地完治)をテーマに、澤田稔、米村まろか、田中統治から提案があった。日本で、今年度以降対応を迫られる喫緊の課題としての新学習指導要領に関して、批判的教育学の研究成果に基づいて論評し、新学習指導要領が孕む諸問題を具体的に明らかにしたうえで、その問題解決の方向性について深い議論がなされた。

また、公開シンポジウムでは「新学習指導要領は各学校の教育課程をどう変えるのかー学校における教育課程編成の行方ー」(コーディネーター/司会:住野好久、指定討論者:山下陽子)をテーマに、工藤文三、池野範男、橘慎二郎、徳山順子から提案がなされた。学習指導要領をふまえ、各学校の教育課程編成はどう行なわれるべきか、その際にどのような教育課程に関する理解が必要か、どのような教育課程編成の際の検討事項があるか、学校教育課程の検討過程にカリキュラム研究はどう貢献できるのか等について、研究者、学校、教育行政等の立場から話題提供していただき、フロアの参加者とともに熱い議論が展開された。(岡山大学大学院教育学研究科:住野好久、桑原敏典)

新役員

任期：2017年6月第28回大会（岡山大学）より2020年第31回大会総会まで

代表理事：松下佳代（京都大学）

理事（31名）：（五十音順、敬称略） ※は前理事から再任、○は推薦による理事

- | | |
|---------------|-------------------|
| ※浅沼 茂（立正大学） | ※田村知子（岐阜大学） |
| ※安藤輝次（関西大学） | ※長尾彰夫（プール学院大学） |
| 石井英真（京都大学） | ※中野和光（美作大学） |
| ※磯田文雄（名古屋大学） | ※西岡加名恵（京都大学） |
| ○上地完治（琉球大学） | ○二宮衆一（和歌山大学） |
| 小柳和喜雄（奈良教育大学） | ※根津朋実（筑波大学） |
| ※工藤文三（大阪体育大学） | ※橋本美保（東京学芸大学） |
| ※倉本哲男（愛知教育大学） | ※○藤川聡（北海道教育大学旭川校） |
| ※子安 潤（中部大学） | ※富士原紀絵（お茶の水女子大学） |
| ※近藤孝弘（早稲田大学） | ○香川大学教育学部附属高松中学校 |
| 佐藤 真（関西学院大学） | ※的場正美（東海学園大学） |
| ※澤田 稔（上智大学） | ※村川雅弘（甲南女子大学） |
| ○柴田好章（名古屋大学） | ※八尾坂修（開智国際大学） |
| ○高橋亜希子（南山大学） | ○吉富芳正（明星大学） |
| ※田中耕治（佛教大学） | 山口 満（筑波大学名誉教授） |
| ※田中統治（放送大学） | |

監査：関根明伸（国士舘大学）【再任】、上野正道（大東文化大学）

事務局：二宮衆一（和歌山大学）（事務局長）
富士原紀絵（お茶の水女子大学）【再任】（幹事）
木村 裕（滋賀県立大学）（幹事）

『カリキュラム研究』第27号・論文投稿先のご案内

『カリキュラム研究』第27号（2017年3月刊行予定）の論文投稿先は以下の通りです。

〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山 7-54
関西学院大学教育学部 佐藤真研究室
日本カリキュラム学会 紀要編集委員会事務局
sshin@kwansei.ac.jp

第26号記載の〔投稿要領〕、〔投稿にあたっての注意〕を熟読願います。
投稿原稿の締め切りは9月末日（当日消印有効）です。

会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

第8回研究集会報告

日時：2017年3月5日（日）13：30－16：30

場所：お茶の水女子大学 文教育学部1号館3階302教室

発表内容：

奥村好美会員（兵庫教育大学・講師）

「オランダの学校評価と学校改善から学ぶ

－豊かな学びと学校の多様性の視点から－」

内藤恵子氏（仙台市立七北田小学校・元校長）・

小泉祥一会員（白鷗大学教育学部・教授）

「新教科『地域共生科』開発の意義と効果

－地域貢献活動を通して自己形成する子どもの育成を中心に－」

司 会 小泉祥一（白鷗大学教育学部教授）

黒田拓志（香川大学教育学部附属高松小学校指導教諭）

上記のとおり、第8回研究集会を開催しました。奥村好美会員と内藤恵子氏・小泉祥一会員による発表は、学習指導要領の改訂にあたってきわめて重要な視点や課題を提示していただき、多くのことを学ぶとともに、参加者からも多くの貴重なご質問やご意見をいただき、たいへん有意義な会となりました。すべての関係者、参加者にお礼申し上げます。

参加者は28名で、北は北海道教育大学、北海商科大学から、南は九州、佐賀大学附属小学校、中村学園大学まで全国各地から、また会員外の方にも8名参加いただいたことは、たいへんありがたかったです。理事の参加も14名あり、理事からのご質問やご意見も多くいただき、全体として率直で貴重なご意見やご助言をいただくことができ、予定時間を超えるほど活発な議論となり、それぞれの研究課題や実践課題を掘り下げることができました。

とりわけ奥村会員による、オランダの学校評価研究からの示唆として「特定の側面だけに光をあてて質を保証しようとする副次的弊害を生みやすい」との指摘は、「資質・能力」が強調される学習指導要領案に対する警鐘と受け止めました。

また、内藤氏らの、地域貢献活動を通して子どもが「学習の社会的意義」や「自己肯定感」を実感する「地域共生科」の実践例の提示から、学習指導要領案で重視されている「社会に開かれた教育課程」や「何のために学ぶのか」という学習の意義の内実に対する吟味の必要性を改めて感じました。

富士原紀絵会員には、会場校を快くお引き受けいただき、会場設営や受付、懇親会の設定等についてもご尽力いただきました。ご協力いただきました院生の方にもお礼申し上げます。

（本研究集会における発表内容の概要については、学会紀要『カリキュラム研究』第27号に掲載されます）

（第8回研究集会コーディネーター：小泉祥一）

2017年9月

日本カリキュラム学会主催 「秋のセミナー2017」のご案内

学び続ける教員像

—教員養成・研修のカリキュラムをともに考える—

日本カリキュラム学会 代表理事：松下 佳代
広報・若手育成委員会委員長：村川 雅弘

近年、「教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である。」と指摘され、「学び続ける教員像」の確立が求められています（中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」2012）。

これを受けるかたちで、馳プラン（2016）、及び教育公務員特例法の改正（2016）等、教師教育をめぐる新たな制度策定の動向があります。加えて、全国的にも、ほぼ教職大学院の設置が終了し（2017）、我が国の教師教育の高度化は、新たな局面を迎えています。

そこで、2017年度のセミナーでは「学び続ける教員像—教員養成・研修のカリキュラム—」と題して、① 教職大学院カリキュラム・指導方法（研修としての育成指標・各種プロジェクトを含む）、② 学士課程の教員養成カリキュラム・指導方法（編成としてのコアカリキュラム、科目としてのカリキュラム・マネジメントを含む）等に焦点をあてながら、各教育委員会・学校・教師、及び大学関係者は「学び続ける教員像」の確立のために、いかに取り組むべきなのかについて、議論を深めていきます。

日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、学会員にかかわらず、全ての学校関係者及び教職を目指す学生・院生、報道機関関係者、研究者に公開いたします。

お誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

開催日時：2017年11月4日（土） 14時～17時（受付13時30分～）

開催場所：お茶の水女子大学共通講義棟2号館・102教室

【最寄り駅は東京メトロ丸の内線の茗荷谷駅です。正門からお入り下さい。】

参加費用：無料（事前申込みの必要はありません）

- (1) 倉本 哲男（愛知教育大学）
「教職大学院、及び教員研修プログラムにおける理論と実践の融合とは？
—カリキュラムマネジメント&アクションリサーチを中心に—」
- (2) 金馬 国晴（横浜国立大学）
「学部生が理想の授業・学級・学校を描く講義
—教職課程のできるカリキュラム・マネジメント—」
- (3) 遠藤 貴広（福井大学）
「地域・学校に根ざした長期実践研究をコアにした教師教育カリキュラム
—教師教育担当者のカリキュラム・マネジメント—」
- (4) 上田 綾子（石川県教員総合研修センター）
「教員に求めるカリキュラム・マネジメントに関する知識・意識とは？
—県センター研修の取り組みから—」

司会進行：村川 雅弘（甲南女子大学）・小柳 和喜雄（奈良教育大学）

事務局からのお知らせ

1. 寄贈図書一覧（2017年2月28日～2017年5月26日到着分）

	著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
1	田中耕治（編著）	戦後日本教育方法論史(上)―カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜―	ミネルヴァ書房	2017/2/20	2017/3/13
2	田中耕治（編著）	戦後日本教育方法論史(下)―各教科・領域等における理論と実践―	ミネルヴァ書房	2017/2/20	2017/3/13
3	メルリン・ワイマー（著）、 関田一彦・山崎めぐみ（監訳）	学習者中心の教育―アクティブラーニングを活かす大学授業―	勁草書房	2017/3/10	2017/3/13
4	神尾陽子、桃井真里子、 児玉浩子、山中龍宏、 高田ゆりこ、衛藤隆、 原寿郎、水田祥代（編著）	学術会議叢書23 子どもの健康を育むために―医療と教育の ギャップを克服する―	キタジマ	2017/3/27	2017/3/30
5	石井英真（編著）	小学校発 アクティブ・ラーニングを超える授業 ―質の高い学びのビジョン「教科する」授業―	日本標準	2017/2/25	2017/3/31
6	石井英真（編著）	教師の資質・能力を高める！アクティブ・ラー ニングを超えていく「研究する」教師へ―教師が学 び合う「実践研究」の方法―	日本標準	2017/3/20	2017/3/31
7	石井英真（著）	中教審「答申」を読み解く―新学習指導要領を 使いこなし、質の高い授業を創造するために―	日本標準	2017/3/25	2017/3/31
8	平田利文（編著）	アセアン共同体の市民性教育	東信堂	2017/2/28	2017/4/13
9	田中耕治、石井英真、 八田幸恵、本所恵、 西岡加名恵（著）	教育をよみとく―教育学的探究のすすめ―	有斐閣	2017/4/30	2017/5/9

2. 平成29年度（2017年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。9月11日時点での2017年度会費の納入率は73.6%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円）

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市柴谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>